

TOKYO AUTO SALON 2023、開催

カーボンニュートラルを目指す社会的動向を受けて、 電動車をベースとしたカスタムカーが多数披露される

カスタムカー及び関連製品の展示会「TOKYO AUTO SALON 2023」が1月13～15日の3日間、幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されました。

国産カーメーカーや輸入車インポーター、タイヤメーカー、アフターパーツメーカー、

カスタムショップなど341社が出展した会場内には、カスタムモデル、モータースポーツ競技車両など789台の車両が展示されました。

カーメーカーのブースでは、昨今のカーボンニュートラルに向けた社会的動向を受

けて、HVやEVなどの電動車をベースとしたカスタムカーが注目を集めました。

デモ走行やステージイベントなど多彩な催しが用意された会場内には家族連れの姿も多く見られ、3日間合計で179,434人の来場者が訪れています。



スズキ スペースアベースに純正カータープ（簡易テント）などを取り付けたキャンピング車中泊仕様車



SUBARU 新型インプレッサ（日本仕様車・プロトタイプ）を初公開



ダイハツ フロント～リアドアにかけてグラデーション塗装が施されたタントカスタム



TOYOTA GAZOO Racing AE86を水素エンジン車（写真）、バッテリーEVに改造したコンセプトカーを出品



日産自動車 リーフの再生バッテリーを活用したポータブル電源を搭載するキャラバン。ルーフには太陽光パネルも搭載



ホンダ シビックをベースに「FEEL SPORTS」をデザインテーマとして、純正アクセサリでカスタマイズを施したコンセプトモデルを初公開



マツダ カーメーカーの実証実験の場であるスーパー耐久「ST-Q」クラスに参戦予定の、次世代バイオディーゼル燃料を使用するレースマシン・MAZDA3 BIO CONCEPT



三菱自動車工業 5月に発売を予定するデリカミニとアウトドアブランド・コルマンのコラボレーションモデル



BYD Auto Japan 国内で販売を予定するEVモデル・ATTO3、DOLPHIN（写真）、SEALの3車種を出品

半導体の需給ひっ迫などの影響により 4年連続で前年割れ

日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車協会連合会の発表によると、2022年の年間新車販売台数は420万1,320台で前年比5.6%の減少となり、4年連続で前年実績を下回りました（グラフ1）。

そのうち登録車の販売台数は256万3,184台で同8.3%の減少、軽四輪車は163万8,136台で同0.9%の減少でした。また、車種別の販売台数（表1）では、軽四輪貨物車が同9.7%増となったものの、その他の車種では前年を下回りました。

2022年の月別販売台数の推移（グラフ2）を見ると、半導体需給のひっ迫などの影響から、1～8月までは前年割れで推移しています。一方9月以降は、前年2021

年に東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大による部品供給不足の影響を受けていた反動などにより、前年を上回る結果となりました。

通称名別販売台数ランキング（表2）では、ホンダN-BOXが20万2,197台でトップになりました。2位は登録車トップのトヨタ・ヤリス（16万8,557台）、3位はトヨタ・カローラ（13万1,548台）でした。

新型コロナウイルスや各種要因を受けた部品供給に対する不安は、いまだ払拭できていません。自動車生産及び販売台数の推移、そしてそれによるアフターマーケットへの影響を今後も注視しておく必要があります。

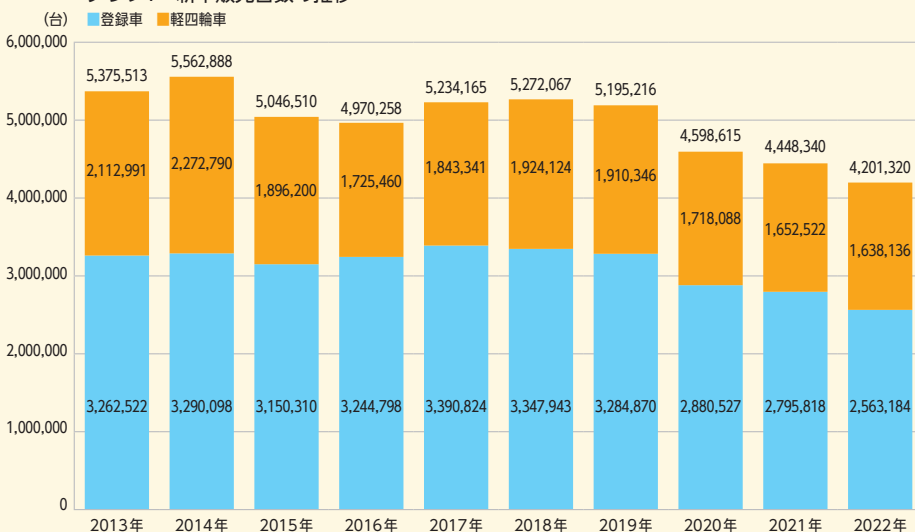
表1 2022年 年間車種別販売台数

	販売台数 (台)	前年対比 (%)
普通乗用車	1,346,229	93.1
小型乗用車	877,074	92.0
普通貨物車	122,629	77.7
小型貨物車	211,772	91.6
バス	5,480	79.7
登録車合計	2,563,184	91.7
軽四輪乗用車	1,224,994	96.0
軽四輪貨物車	413,142	109.7
軽四輪車合計	1,638,136	99.1
総計	4,201,320	94.4

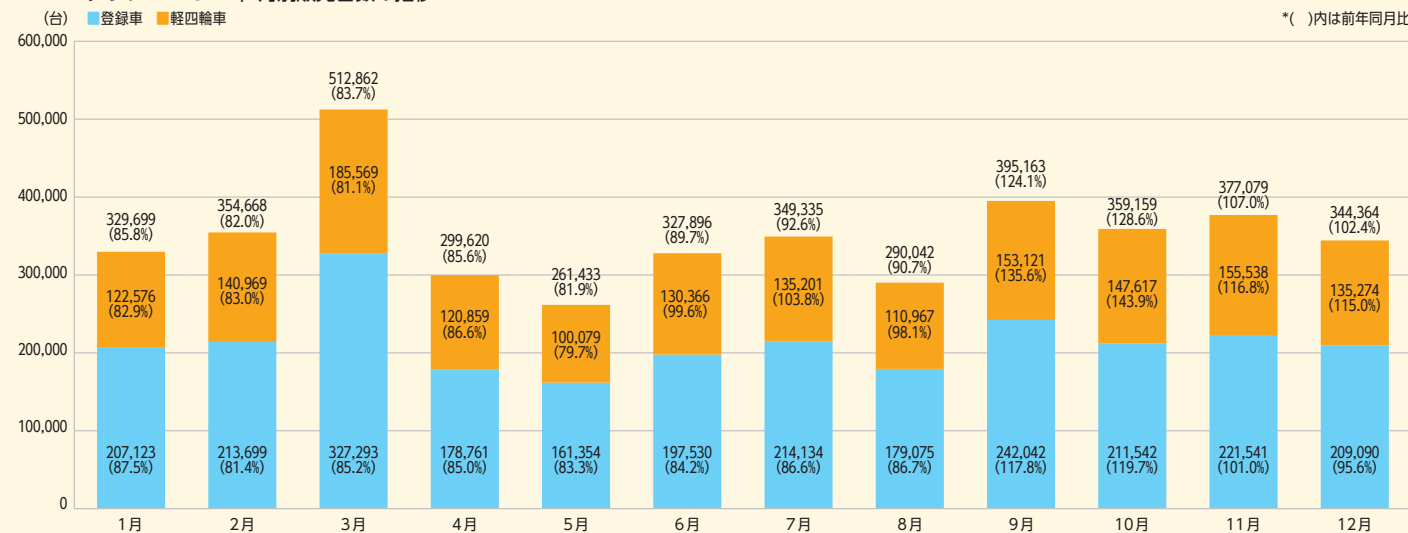
表2 2022年
通称名別 年間新車販売台数ランキング

順位	通称名	ブランド名	台数	前年比
1	N-BOX	ホンダ	202,197	107.0
2	ヤリス	トヨタ	168,557	79.2
3	カローラ	トヨタ	131,548	118.7
4	ノート	日産	110,113	122.1
5	ルーミー	トヨタ	109,236	81.0
6	タント	ダイハツ	107,810	92.2
7	スペーシア	スズキ	100,206	77.8
8	ムーヴ	ダイハツ	94,837	99.0
9	ライズ	トヨタ	83,620	102.1
10	ワゴンR	スズキ	82,213	119.2
11	フリード	ホンダ	79,525	114.3
12	ルークス	日産	72,600	85.7
13	アクア	トヨタ	72,084	99.4
14	ハスラー	スズキ	70,373	85.3
15	シエンタ	トヨタ	68,922	119.2
16	アルト	スズキ	67,204	110.3
17	ミラ	ダイハツ	65,317	99.3
18	フィット	ホンダ	60,271	102.5
19	アルファード	トヨタ	60,225	63.4
20	ノア	トヨタ	57,696	130.5

グラフ1 新車販売台数の推移



グラフ2 2022年 月別販売台数の推移



*()内は前年同月比

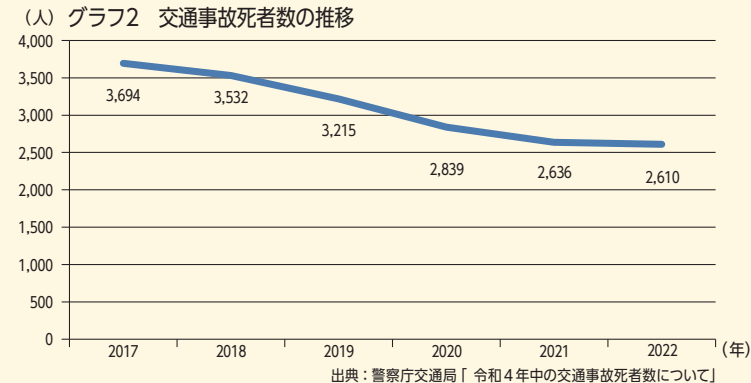
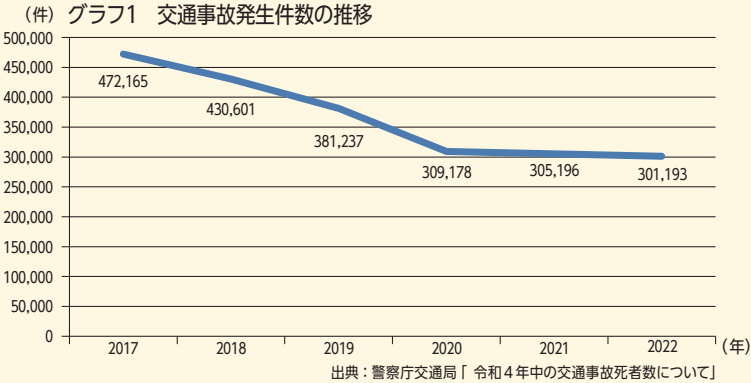
警察庁、2022年中の交通事故発生状況を発表

事故発生件数、負傷者数ともに減少

警察庁はこのほど、2022年中の交通事故発生状況を発表しました。それによると2022年に発生した交通事故の件数（グラフ1）は、前年より4,003件少ない30万1,193件、負傷者数は同5,712人少ない35万6,419人、死者数（グラフ2）は同26人少ない2,610人でした。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて2020年4月に初めて発出された緊急事態宣言は、その後の感染者数の動向などに応じて対象地域の変更及び終了・発出が繰り返されましたが、2021年9月の終了後は新たに発出されていません。2022年もまん延防止等重点措置が実施されるなど、新型コロナウイルスによる行動制限や移動自粛の傾向は続き、我々の生活がコロナ禍前に戻ったわけではありませんでしたが、社会活動については徐々に再開の動きが見られました。社会活動の再開に伴い、自動車の利用頻度や活用場面も増加したと考えられますが、それによって交通事故発生件数が増加することはありませんでした。

2021年11月より国産乗用・新型車に対する衝突被害軽減ブレーキの装着義務化が開始されるなど、先進安全装置の普及は近年急速に進んでいます。これら先進安全技術の性能向上及び装置率の上昇を受けて、この先も事故発生件数の減少傾向は続くことが予想されます。



2022年12月末時点の特定整備認証取得状況

経過措置期間終了が来年に迫る中、早めの対応が求められる

2020年4月の特定整備認証制度開始を受けて、電子制御装置整備を行うためには対象となる装置に対応した特定整備認証の取得が必要となりました。

国土交通省によると、2022年12月末日時点で運行補助装置に対応可能な認証の取得件数は41,345件でした（表1）。一方、日本自動車整備振興会連合会の発行する自動車整備白書（令和3年度版）によると、2021年6月末時点における整備事業場数は91,454事業場、指定工場数は30,083事業場です。このことから整備事業場の半数は、まだ電子制御装置整備に対応した特定整備認証を取得していないこととなります。

衝突被害軽減ブレーキの装着義務化などを受けて、電子制御装置整備対象車種はますます増加しています。また、整備事業者が認証を受けるための準備期間として設定されている4年間の経過措置期間の期日も、いよいよ来年に迫っています。まだ電子制

御装置整備に対応した特定整備認証を取得 進めたいところです。
していない工場においては、早めの対応を

表1 2022年12月末時点における電子制御装置整備の認証件数（速報値）

運行補助装置			
新規（申請）		変更（申請）（パターン3）	合計
電子制御装置整備のみ（パターン2）	分解整備＋電子制御装置整備（パターン3）		
693	811	39,841	41,345

自動運行装置			
新規（申請）		変更（申請）（パターン3）	合計
電子制御装置整備のみ（パターン2）	分解整備＋電子制御装置整備（パターン3）		
0	0	216	216

情報提供：国土交通省 自動車局整備課

NGP 今月のCO₂削減量

リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和4年12月：1,853t

リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和4年12月：0.5t

※自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む）115品目を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

日整連、第23回全日本自動車整備技能競技大会を開催

全国整備振興会の代表選手が、 日ごろ培った技術と知識を競う

日本自動車整備振興会連合会（竹林武一会長）は2022年11月26日、東京ビッグサイト（東京都江東区）で第23回全日本自動車整備技能競技大会を開催しました。

同大会は自動車整備士の技能向上や交流を深めるとともに、整備事業の公共性と業界の教育訓練・技能錬磨の姿勢を広く社会に示すことを目的として、隔年で開催されているものです。本来は2021年に開催される予定でしたが、コロナ禍であることを考慮して延期され、このほど感染予防対策を施した上で3年ぶりの開催となりました。

全国の整備振興会から2人1チームで45チームが参加し、1年定期点検整備をベースにした点検整備と故障診断を行う実車競技（配点700点）、車両の点検整備に

必要となる一般的な技能を審査する基礎競技（配点100点）、顧客への問診・対応・結果説明をロールプレイング形式で行うアドバイザー競技（配点200点）の3種目で、合計点数を競いました。

その結果、新潟県自動車整備振興会チーム（ナカノオート・石田俊行氏、久保モータース・久保仁氏）が優勝しました。また12月23日には、優勝した両選手に対して斉藤鉄夫国土交通大臣より大臣杯が授与されました。大臣杯を授与した斉藤大臣は「自動車整備は安全安心な車社会の基盤となる大変重要な仕事であり、それを根幹で支えているのが自動車整備士の皆さまです。優勝されたお二人には、これからご自身の知識と技能のさらなる向上や後進への指



技能競技大会の様子



国土交通大臣杯授与式の様子（写真中央・斉藤鉄夫国土交通大臣、同左・久保仁氏、同右・石田俊行氏）

導や育成、ひいては自動車整備業界全体の発展のため、一層ご活躍いただけることを期待しています」と、両名の日ごろの技術研鑽を賞賛するとともに、国土交通省としても安全な車社会を維持する整備業界の発展に向けて尽力していく姿勢を強調しました。

NGP組合員 かわら版

自動車リユース部品のCO₂削減効果の定量化に向けた取り組みなどを評価

NGP協同組合の活動が「第2回クルマ・社会・パートナーシップ大賞」で「グッドパートナーシップ事業」に選定される

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（小林信夫理事長）が推進してきた「使用済自動車の部品を再利用する自動車リユース部品のCO₂削減効果を基に利用拡大や環境啓発などに取り組む一連の諸活動」が、このほど一般社団法人日本自動車会議所が主催する「第2回クルマ・社会・パートナーシップ大賞」の「グッドパートナーシップ事業」に選定されました。

「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」は、自動車業界で働く550万の人々と

自動車ユーザーによるさまざまな貢献に感謝を伝えるとともに、それぞれの取り組みが世の中に広がっていく一助となることを目的として、2021年に創設された表彰制度です。

NGPが明治大学、富山県立大学とともに2013年5月より開始した産学共同研究により、自動車リユース部品のCO₂削減効果の定量化及び実用化に成功したこと、またその研究成果がリユース部品の普及・啓発やSDGs宣言における具体的な数値目標の設定に活かされているこ

となどが評価され、今回の選定に至りました。

NGPは、今後も大学とのパートナーシップを大切に育てながら、部品の調査対象をさらに増やして研究を継続・拡大するとともに、リユース部品の利用拡大に取り組むことでカーボンニュートラルの実現に寄与したいと考えています。また、研究を活かしたSDGs活動や情報発信を積極的に行い、自動車リサイクルを通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

組合員情報変更

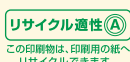
支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東海	有限会社 名古屋解体メカイパーツ	住所変更（地番変更）	〒463-0003 愛知県名古屋守山区下志段味3丁目3503番地	2023年1月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



ZERO®
CO₂
PRINT



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO₂ 全量をカーボンオフセット（相殺）した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。